

131. グループウェアについて

技術基準課長 中村 芳男

1年と少し前、情報システムを担当しました。この世界ではよく略語が使われますが、同じような意味合いとして使われているものに ICT と IT があります。改めて調べてみると、ICT(情報通信技術)とは、『情報や通信に関する技術の総称。日本では同様の言葉として IT(情報技術)の方が普及しているが、国際的には ICTの方が通りがよい。総務省の「IT政策大綱」が2004年から「ICT政策大綱」に名称を変更するなど、日本でも定着しつつある。』（出典：IT用語辞典 e-Words）とあります。ITからICTに名前を変えようとしてもう10年になるのですね。やっと定着してきたようですが、ITのほうが呼びやすく、つい使ってしまう。

その一つに、グループウェアと言われるものがあります。JSでもメール、スケジュール、業務アプリケーション、掲示板、施設予約やタスクなどを統合して管理できるように考えられたものを使用しています。便利なこのグループウェアですが、他のソフトウェアとの連携が課題です。グループウェアに用意されているものを無駄なく利用できればいいのですが、実態はメールは別とか、掲示板は別とか、業務システムなど、様々なものを使用しているため、重複があるのが実情です。多くの企業には昔からのシステムをそのまま引きずっているもの（レガシーシステム）があります。それらはOSが異なっていたり、専門性に特化していたりして連携に難がある場合が多くあります。また、セキュリティを確保する必要もあります。そのため業務上では独立したような形で併用して使われることとなります。

各社がいろいろなレベルのグループウェアを開発しており、大手のG社は、自社のグループウェアで殆どの業務対応ができるように考えています。企業の中には使いやすいようにソフト改造を望むところもありますので、簡易な操作性とカスタマイズの容易性を打ち出しているところもあります。さらには、企業側に立ってよりセキュリティレベルを高め、専門性を高めた業務ソフトを取り揃えるグループウェアもあります。各社ともユーザーの囲い込みに必死となっていますが、多様なニーズがあるため何が良いとは限定できず、結局は自分たちが使いやすいものを、というところに落ち着くのだと思います。

スケジュールの連携ができて、掲示板が外部から覗けるようになるといいですね。